

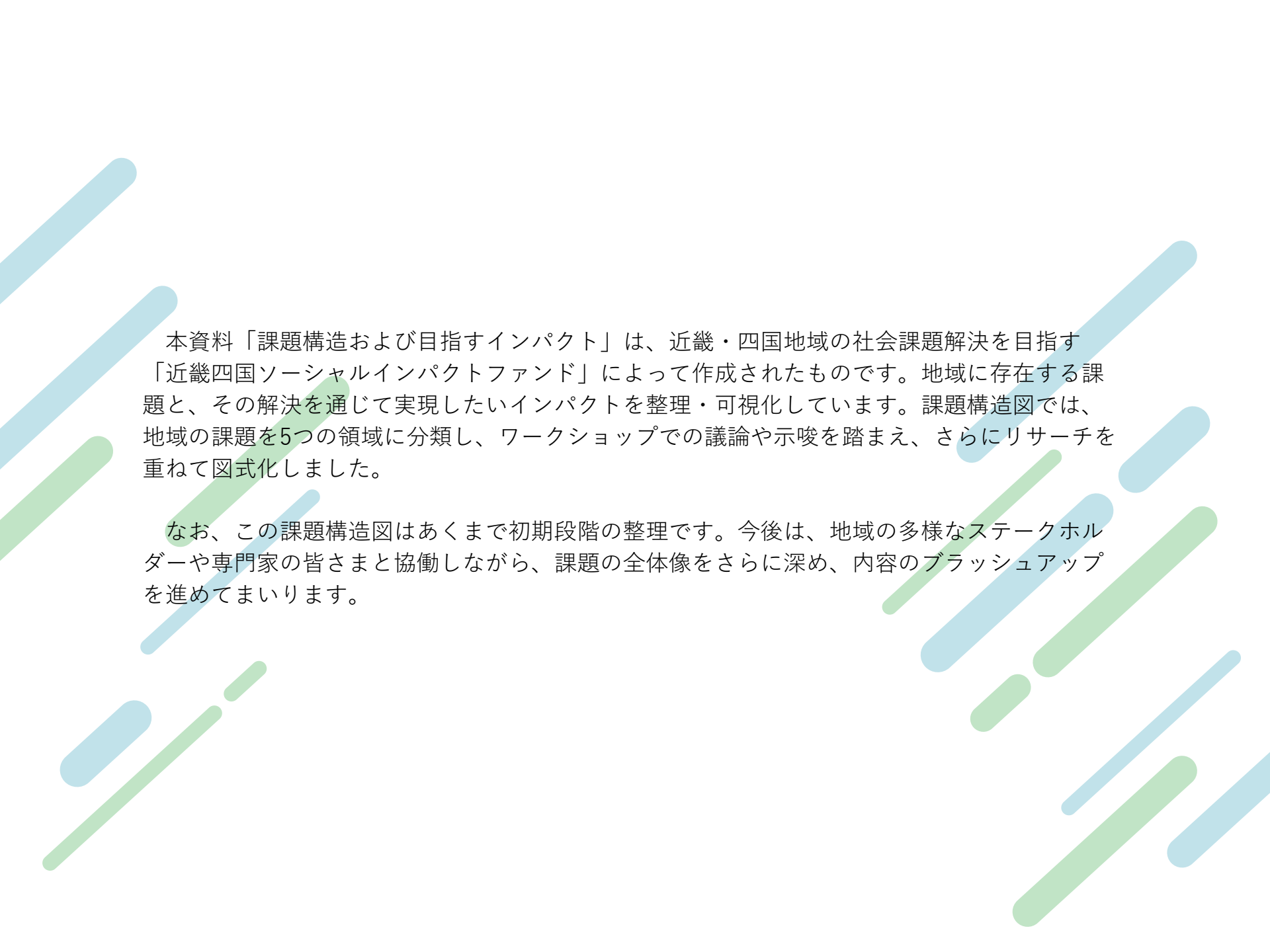
近畿四国

ソーシャルインパクトファンド

近畿四国ソーシャルインパクトファンド 課題構造 & 目指すインパクト

ver. 2.0

2026年1月



本資料「課題構造および目指すインパクト」は、近畿・四国地域の社会課題解決を目指す「近畿四国ソーシャルインパクトファンド」によって作成されたものです。地域に存在する課題と、その解決を通じて実現したいインパクトを整理・可視化しています。課題構造図では、地域の課題を5つの領域に分類し、ワークショップでの議論や示唆を踏まえ、さらにリサーチを重ねて図式化しました。

なお、この課題構造図はあくまで初期段階の整理です。今後は、地域の多様なステークホルダーや専門家の皆さまと協働しながら、課題の全体像をさらに深め、内容のブラッシュアップを進めてまいります。

改訂履歴

日付	バージョン	内容
2025年9月	1.0	課題構造、目指すインパクトを作成
2026年1月	2.0	目指すインパクトに全体のロジックモデル・KPIを追記

目次

- 1. 課題構造 P. 5-12
- 2. 目指すインパクト P.13-21

1. 課題構造

本ファンドのテーマ領域（5領域）

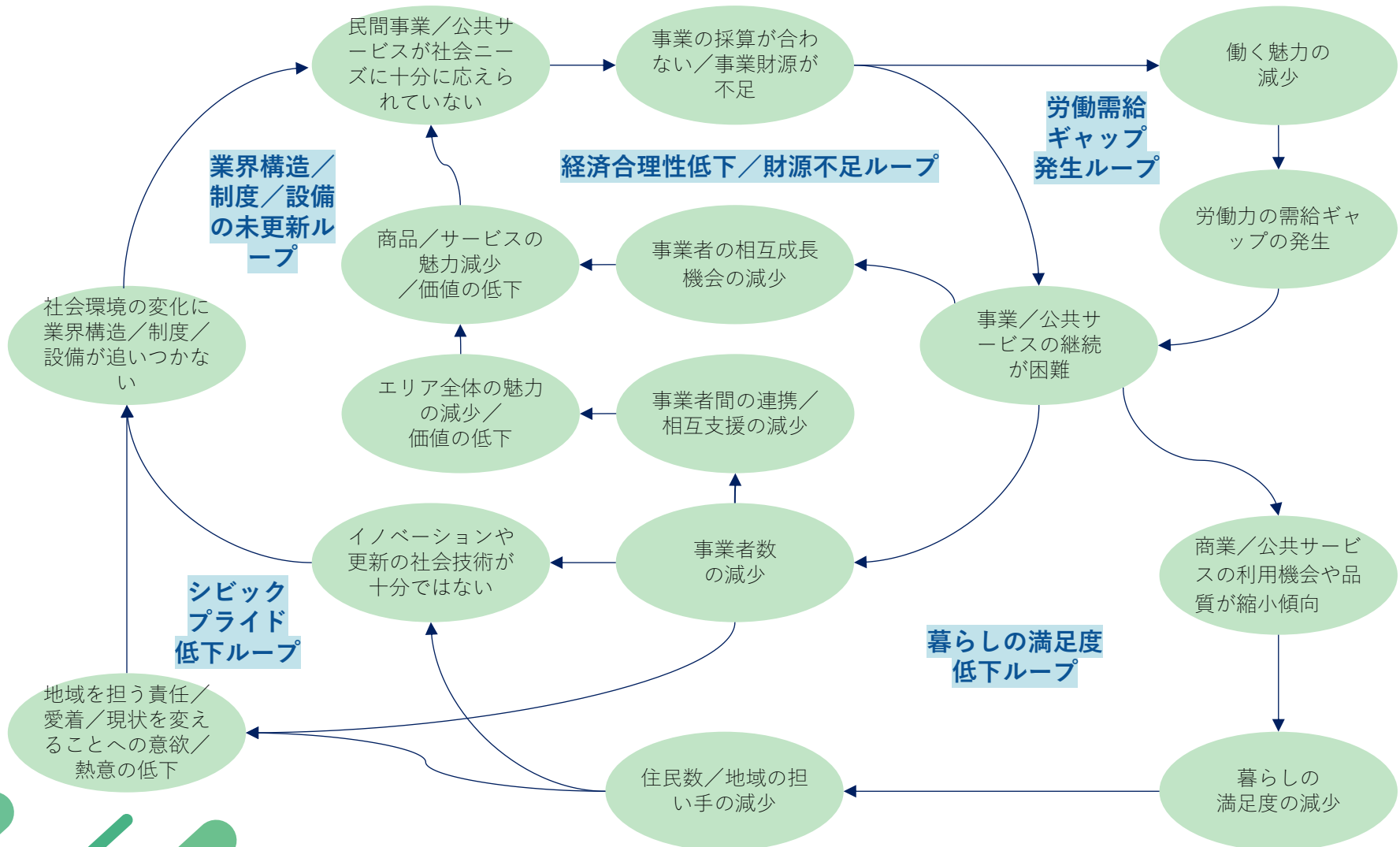


選定理由

1. 近畿・四国地域における主要な産業であり、今後の地域発展には欠かせない領域である
2. 近畿・四国地域の特性を活かした「仕事」であり、地域ならではの「暮らし」に密接に関係をしている
3. 既存の仕組み・制度が確立している領域である一方で、魅力ある地域づくりにおいては大胆なシステムチェンジが求められている

1. 課題構造

共通する課題構造



1. 課題構造

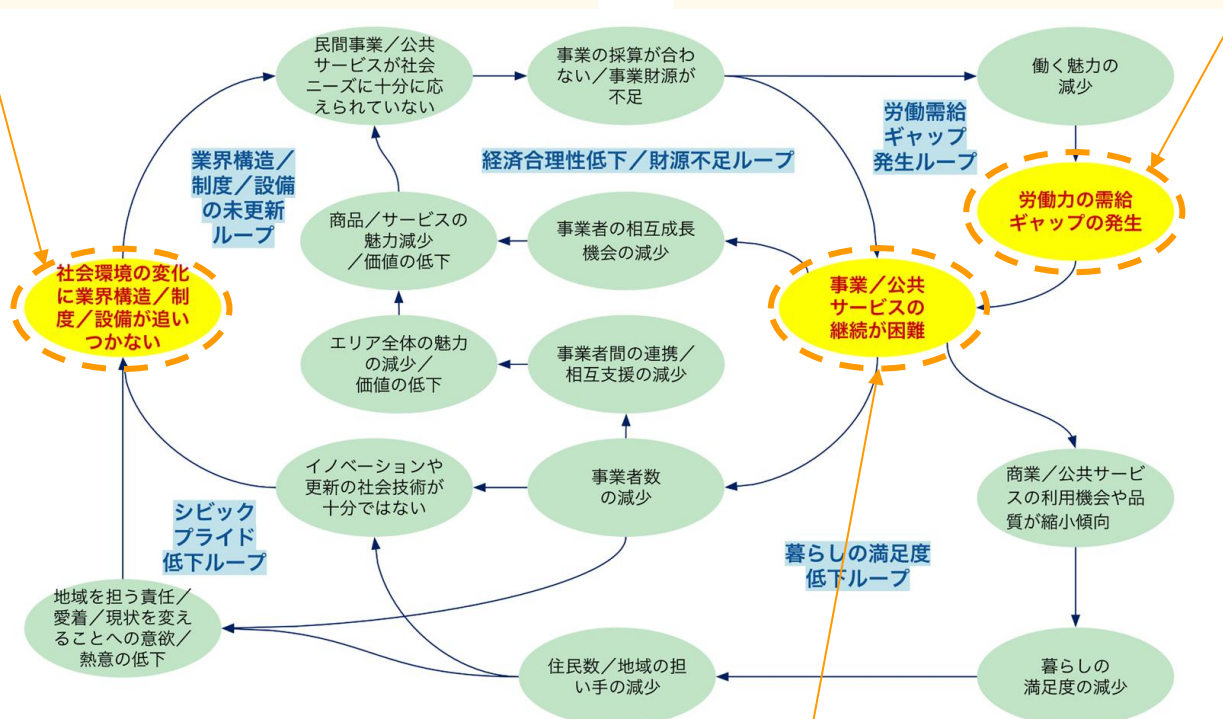
主な重点取り組みポイント

重点取り組みポイント①

社会の仕組み・制度の更新を
一部民間にて分担する（公から民へ）

重点取り組みポイント②

労働力の需給ギャップを
軽減・解消する



重点取り組みポイント③

持続可能性の高い、魅力ある地域の産業・事業を創出する

1. 課題構造

各テーマ毎の課題構造

① 地方自治体などが担えないサービス

課題			課題の起点	解決のアプローチ例
近畿圏	四国圏	共通		
<ul style="list-style-type: none"> 都市周辺部の無縁社会 高齢単身世帯の孤立 防災共助の担い手不足 	<ul style="list-style-type: none"> 地域共同体の崩壊 買物弱者・空き家増加 災害対応脆弱 	<ul style="list-style-type: none"> 孤立・共助の消滅 公的制度の限界 産官学連携の推進不足 低所得者への支援の限界 	<p>1 社会環境の変化に業界構造／制度／設備が追いつかない</p> <ul style="list-style-type: none"> 公営施設等の老朽化や制度の形骸化 受益者が慣習的に制度に依存する構造 制度設計・運用の硬直化 <p>2 事業の採算が合わない／事業財源が不足</p> <ul style="list-style-type: none"> 財源不足（離島、山間部等の医療、高齢者介護・見守り） <p>3 イノベーションや更新の社会技術が不足</p> <ul style="list-style-type: none"> イノベーションを起こすための人材の不足 イノベーションを起こそうという熱意・ノウハウの必要性 	<ul style="list-style-type: none"> 低所得者層の住宅確保の多様化 公営施設の官民協働運営 スポーツ施設×障がい者 SIBの導入 自治的住民運営 つながり創出 データの共通インフラ化 シングルマザーを含む子育てに課題を抱えている方の支援（デイ・宿泊預かりと本人の自立支援） 医療データ×遠隔診療 見守りケアのシステム コミュニティの再構築・相互扶助 モビリティの再構築 高利便性のコミュニティへの移行（ラストワンマイル・MaaS）

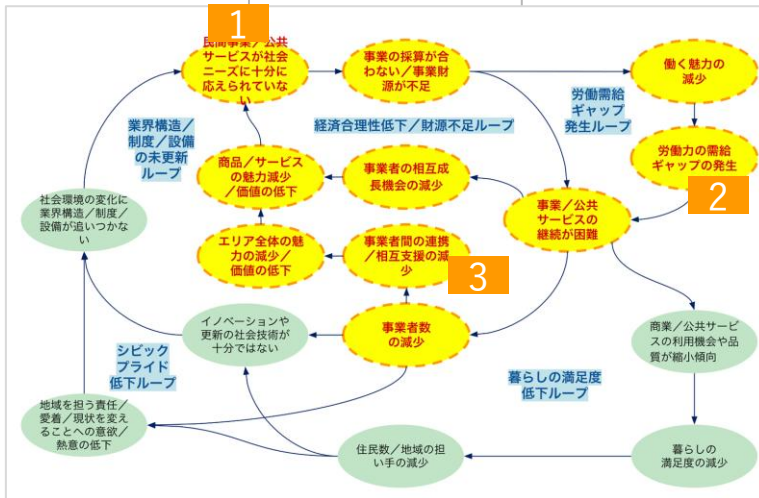
キーワード

1. 課題構造

各テーマ毎の課題構造

② 農水産業などの一次産業

課題			課題の起点	解決のアプローチ例
近畿圏	四国圏	共通		
<ul style="list-style-type: none"> 中山間地域の農業が孤立 都市と農村の連携・つながりが十分に進んでいない 	<ul style="list-style-type: none"> 担い手・後継者不足 漁村・農村の高齢化 	<ul style="list-style-type: none"> 地域経済の空洞化 地場産業の安定的な運営が課題 	<p>1 民間事業が社会ニーズに合わない</p> <ul style="list-style-type: none"> 持続可能な経営への取り組みが発展途上にある（稼業から経営へのシフト） 安定した供給が十分に整っていない状況 高付加価値化の推進が遅れている部分がある <p>2 労働力の需給ギャップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 農業の魅力発信が十分に行き届いていない 担い手が十分に確保できていない 営農指導の体制や力が弱まりつつある <p>3 事業者間の連携／相互支援の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域支援体制や繋がり希薄化 地域における相互支援の減少 地域資源との連携の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 特産品ブランド化、産地化推進 六次産業化、加工品開発 地域間連携による周年出荷 新品目栽培 安全・安心対応 スマート農業 産地直送、流通の整備（鮮度と費用重視のルート開発等）、販路開拓 JAS認証 関係人口の一時的な労働参画 農福連携 農業戦略の策定支援 栽培技術の支援 事業承継の促進 行政、シンクタンク、大学連携 観光連携 施設・機械の共同利用 地産地消 環境（山里川海）対策 食育（消費者・小売）



キーワード

1. 課題構造

各テーマ毎の課題構造

③ 観光業
(飲食業・宿泊業)

課題			課題の起点	解決のアプローチ例
近畿圏	四国圏	共通		
<ul style="list-style-type: none"> 観光資源の一極集中（京都・大阪） 地域間格差の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 資源未活用、アクセス困難 交流人口の減少 	<ul style="list-style-type: none"> 地域外への経済流出 誇りと関係人口の薄れ 	<p>1 民間事業が社会ニーズに合わない</p> <ul style="list-style-type: none"> 旅の目的や豊かさの変化→タッチアップに時間がかかっている 地域魅力度の発信力向上が課題 <p>2 労働力の需給ギャップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 担い手の教育推進が不足している <p>3 事業者間の連携／相互支援の減少</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域資源の活用や連携が十分に進んでいない 地域内連携が十分ではない 	<ul style="list-style-type: none"> 周遊、体験観光地域 ブランド化 インバウンド確保 リピーター確保 関係人口の創出 SNS等発信の多様化 <ul style="list-style-type: none"> 関係人口の一時的な労働参画 <ul style="list-style-type: none"> 賑わい創出イベント企画 コンテンツの発掘・企画 おもてなしマインド醸成 地元の歴史文化等地域資源の再発掘 シビックプライド醸成 エリアブランディング・エリアマネジメント推進

キーワード

1. 課題構造

各テーマ毎の課題構造

④ 教育や介護などの ケア産業

課題			課題の起点	解決のアプローチ例
近畿圏	四国圏	共通		
<ul style="list-style-type: none"> 都市に福祉偏在、郊外は空白地帯 ケア人材不足 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問介護・保育の不在 医療格差（特に離島） 	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の生活支援難 教育・介護格差 	<p>1 事業の採算が合わない／事業財源が不足</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済負担格差 サービス機会格差 縮退領域の存在 <p>2 労働力の需給ギャップ</p> <ul style="list-style-type: none"> 採用需給ギャップ 担い手人材不足 <p>3 イノベーションや更新の社会技術が不足</p> <ul style="list-style-type: none"> 自助の破綻 地域でのつながりの希薄化 包括的な戦略や施策が十分に進んでいない 現状の課題把握や認識が十分に進んでいない 	<ul style="list-style-type: none"> AIやDX化の推進によるテック活用型サービスへの転換 小規模・地域密着型ケア テック活用型サービス 人材のマッチングと定着施策 働き方・働く環境の改革 免許保有者の復職・復職の推進など 代替プランの導入検討 高齢化少子化対応のサービスの制度設計 再分配を前提とした行政サービス設計や新しい概念導入

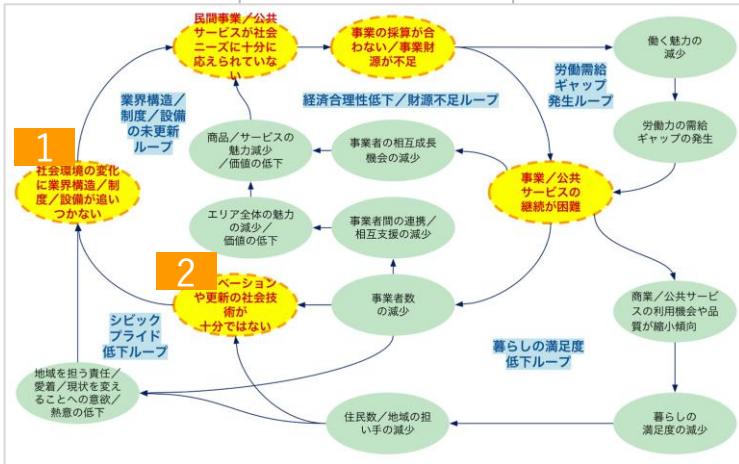
キーワード

1. 課題構造

各テーマ毎の課題構造

⑤ 交通・エネルギーなどの地域インフラ事業

課題			課題の起点	解決のアプローチ例
近畿圏	四国圏	共通		
<ul style="list-style-type: none"> 過密都市の老朽・インフラ更新遅れ 公共交通の不均衡 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通の縮小・消滅 再エネ未整備・高コスト 	<ul style="list-style-type: none"> 生活圏の維持困難 災害への脆弱性 過去のインフラ整備の利便性低下 	<p>1 社会環境の変化に業界構造／制度／設備が追いつかない 老朽化施設の立替の遅れ</p> <ul style="list-style-type: none"> 劣化する予算措置 暮らし目線の追加整備の必要性 <p>想定外災害に向けたBCP対応の遅れ</p> <ul style="list-style-type: none"> 緊急連絡網整備の対応の必要性 避難・備蓄・バックアップ機能の対応の必要性 <p>2 イノベーションや更新の社会技術が不足</p> <ul style="list-style-type: none"> 住民合意形成の必要性 生活圏コミュニティの構築の必要性 	<ul style="list-style-type: none"> 再エネ導入（分散効果、経済合理性） 新ファイナンススキームの構想 共有データプラットフォームの構築 地域医療システム構築 持続可能な都市計画（事業者目線） 地域マイクログリッド推進 危機意識の醸成や訓練 防災・減災のインフラ整備 MaaS、ラストワンマイル対応 生活圏コミュニティの領域設定 合理的かつ利便性に富む地域サービス



キーワード

2. 目指すインパクト

重点取り組みポイント

1. 社会の仕組み・制度の更新の一部を民間にて分担する（公から民へ）
2. 労働力の需給ギャップを軽減・解消する
3. 持続可能性の高い、魅力ある地域の産業・事業を創出する

本ファンドの目指すインパクト

- 近畿四国地域においていつまでも変わらない本質的なものを大切にしながらも、時代の変化に応じて新しい要素を取り入れることを可能にするための仕組みや環境の整備
- 5つの領域において、近畿四国の次の100年を担う魅力ある地域の産業・事業の創出
- 地域社会のシステムチェンジを自ら担うリーダー等の人材育成

2. 目指すインパクト

本ファンドの目指す波及効果

階層③ インパクト（社会制度・文化・価値観の変容）

（10年以降）

↑ 社会全体へのパラダイム変化

↑ 波及・累積効果

階層② アウトカム（地域・関係者への波及的变化）

（短期：3-5年、中期：5-10年）

↑ 事業が地域・社会に与える連鎖的影響

↑ 直接的な成果の積み重ね

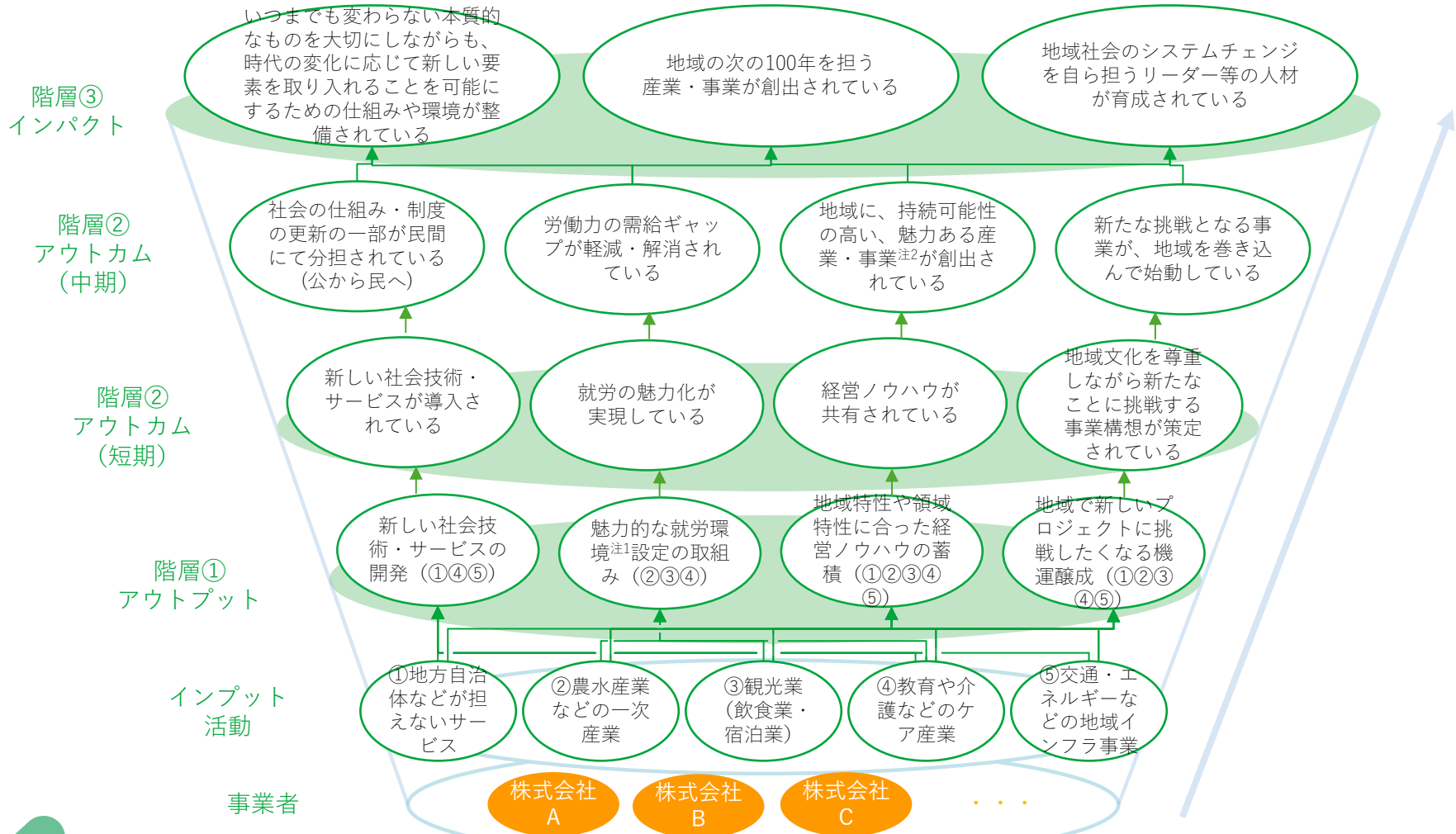
階層① アウトプット（事業活動の目に見えるアウトプット）

（1年）

2. 目指すインパクト

全体で目指すインパクト

全体



注1) 個々人が役割を持ち、自身の希望する働き方を選択できる就労環境

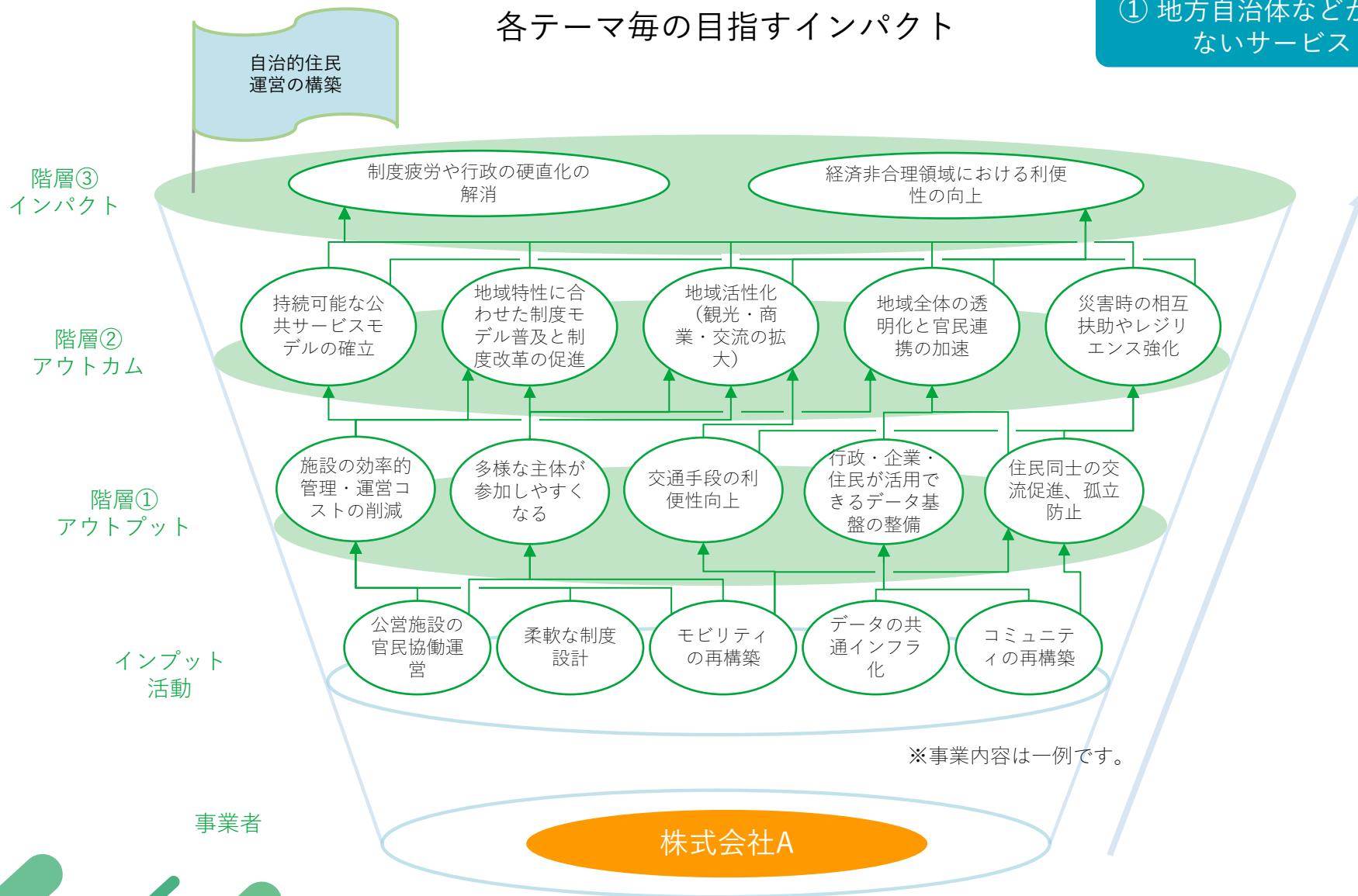
注2) インパクト創出に資する産業・事業

※事業者数はイメージです。

2. 目指すインパクト

① 地方自治体などが担えないサービス

各テーマ毎の目指すインパクト



2. 目指すインパクト

② 農水産業などの
一次産業

各テーマ毎の目指すインパクト

農水産業自体を
持続化！

階層③
インパクト

階層②
アウトカム

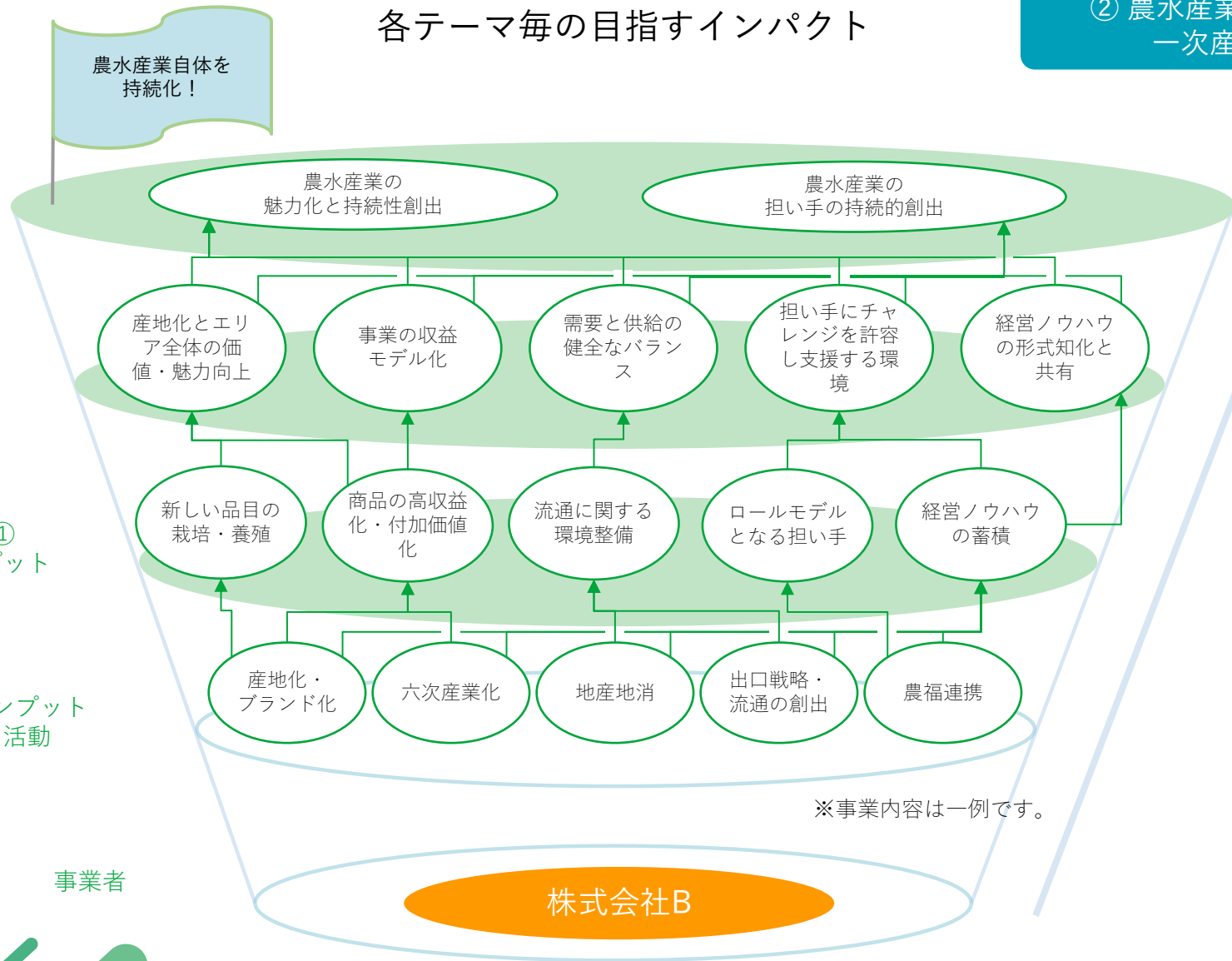
階層①
アウトプット

インプット
活動

事業者

株式会社B

※事業内容は一例です。



2. 目指すインパクト

③ 観光業
(飲食業・宿泊業)

各テーマ毎の目指すインパクト

観光産業自体を
持続化！

階層③
インパクト

観光業の
魅力化と持続性創出

観光業の
担い手の持続的創出

階層②
アウトカム

エリア全体の
価値・魅力向上

事業の収益
モデル化

担い手にチャ
レンジを許容
し支援する環
境

経営ノウハウ
の形式知化と
共有

持続可能な受
け入れ体制確
立

階層①
アウトプット

周遊観光や体
験型観光の開
発

サービスの高
収益化・付加
価値化

地域内外を繋
ぐ機能(DMO・
事業者コミュ
ニティ等)

ロールモデル
となる担い
手・経営ノウ
ハウの蓄積

最適なサービ
スの受け入れ
設計

インプット
活動

観光体験の
新しい豊かさ

地域資源

マイクロソ
ーリズム

関係人口の
創出

サステナブル
ツールズ
ム

事業者

株式会社C

※事業内容は一例です。

2. 目指すインパクト

④ 教育や介護などの
ケア産業

各テーマ毎の目指すインパクト

持続可能な地域での
支援環境整備！

階層③
インパクト

階層②
アウトカム

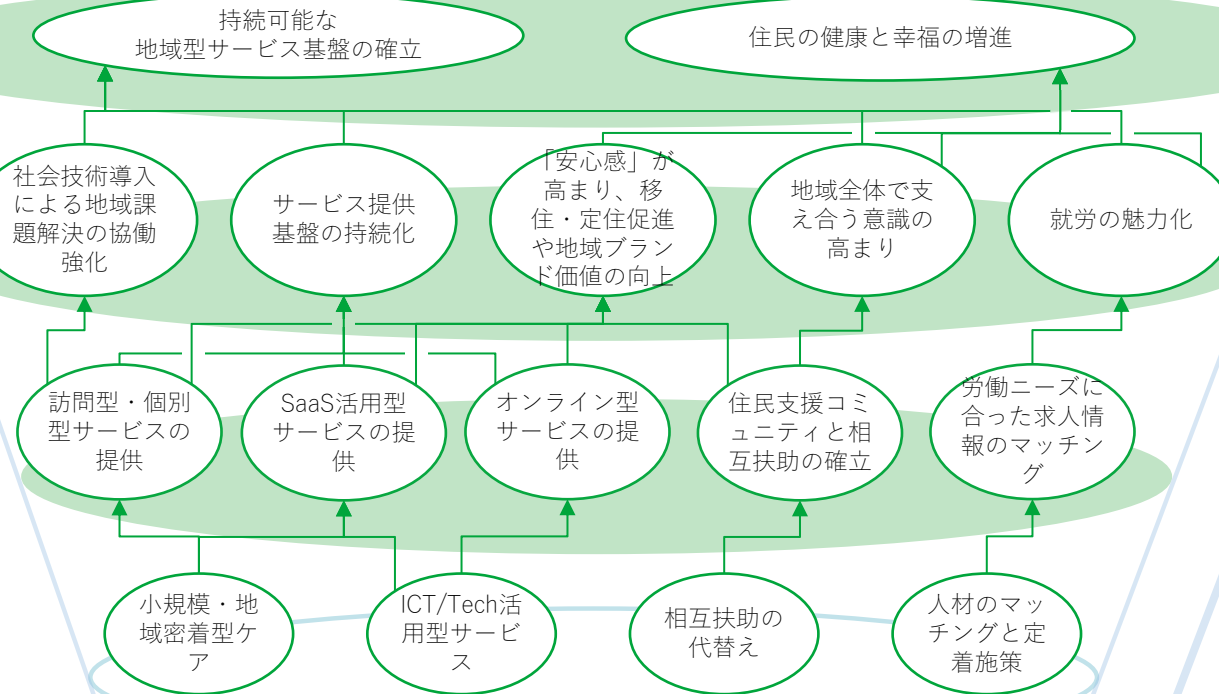
階層①
アウトプット

インプット
活動

事業者

株式会社D

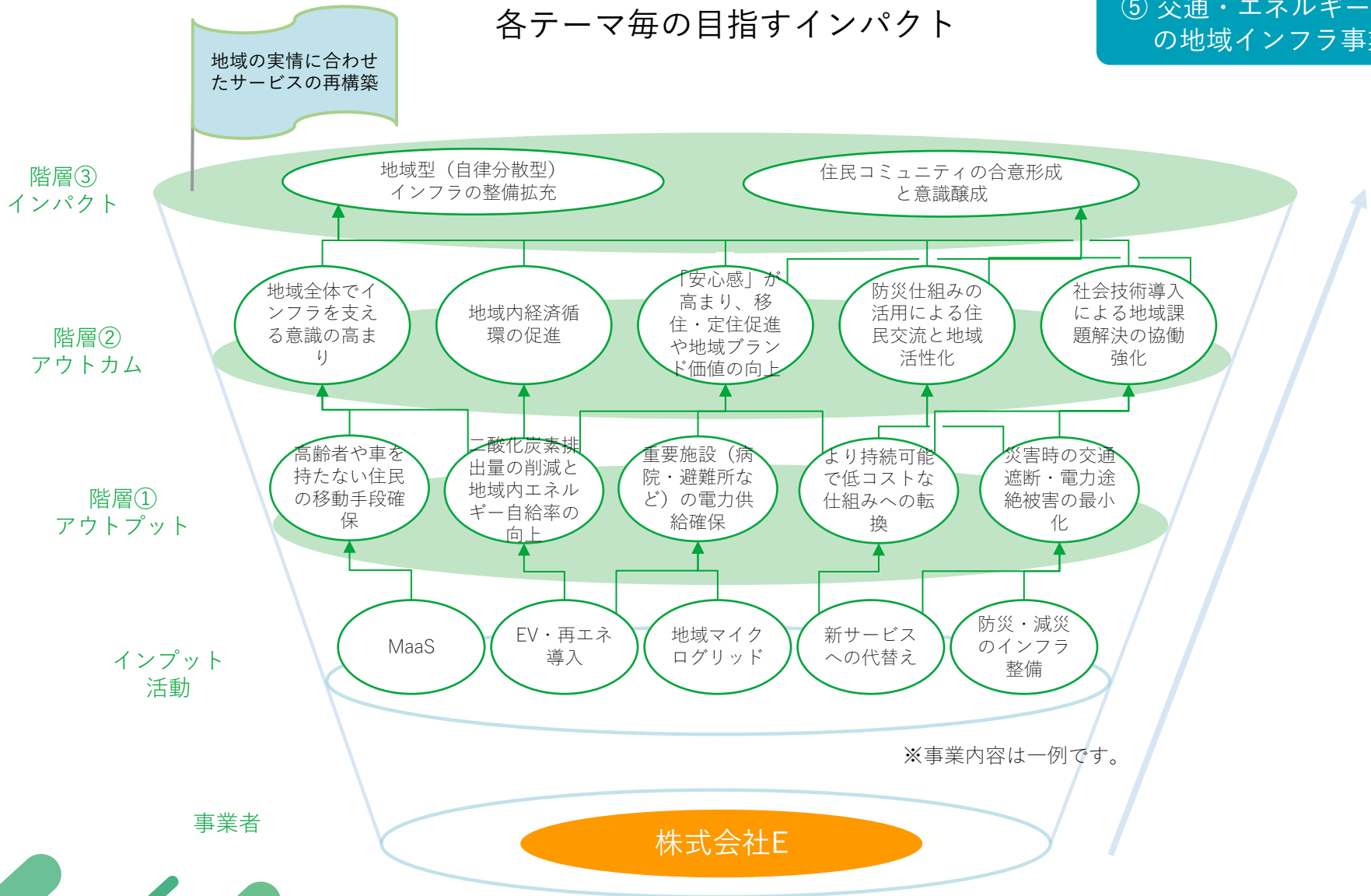
※事業内容は一例です。



2. 目指すインパクト

⑤ 交通・エネルギーなどの
地域インフラ事業

各テーマ毎の目指すインパクト



2. 目指すインパクト

インパクト実現のためのKPI

階層	目標	KPI
階層① アウトプット	・新しい社会技術・サービスの開発（①④⑤）	・技術・サービスを開発が進んだ投資先比率
	・魅力的な就労環境 ^{注3} 設定の取り組み（②③④⑤）	・取り組みを実施しているまたは取り組みが深化した投資先比率
	・地域特性や領域特性に合った経営ノウハウの蓄積（①②③④⑤）	・経営ノウハウの蓄積が進んだ投資先比率
	・地域で新しいプロジェクトに挑戦したくなる機運醸成（①②③④⑤）	・新しいプロジェクトアイデア ^{注4} を創出した投資先比率
階層② アウトカム （短期）	・新しい社会技術・サービスが導入されている	・社会技術・サービスを地域の自治体や企業等に導入または定着させた投資先比率
	・就労の魅力化が実現している	・就労の魅力化 ^{注5} が実現している投資先比率 ・既存職員の前向きな反応が増加した投資先比率
	・経営ノウハウが共有されている	・担い手が存在する投資先比率
	・地域文化を尊重しながら新たなことに挑戦する事業構想が策定されている	・投資先に関係する事業者で、事業構想を策定した事業者の有無
階層② アウトカム （中期）	・社会の仕組み・制度の更新の一部が民間にて分担されている（公から民へ）	・民間への展開の有無
	・労働力の需給ギャップが軽減・解消されている	・需給ギャップが軽減・解消された投資先比率
	・地域に、持続可能性の高い、魅力ある産業・事業 ^{注6} が創出されている	・事業が黒字化または黒字幅が増加している、かつ魅力ある産業・事業を展開あるいは創出した投資先比率
	・新たな挑戦となる事業が、地域を巻き込んで始動している	・創出された産業・事業数 ・黒字化または黒字幅が増加した投資先事業 ^{注7} 者数
階層③ インパクト	・いつまでも変わらない本質的なものを大切にしながらも、時代の変化に応じて新しい要素を取り入れることを可能にするための仕組みや環境の整備 ・地域の次の100年を担う産業・事業が創出されている ・地域社会のシステムチェンジを自ら担うリーダー等の人材が育成されている	

注3) 個々人が役割を持ち、自身の希望する働き方を選択できる就労環境 注4) 投資先事業者内および投資先の連携事業者が関与するアイデア 注5) 就労に関する外部からの問い合わせの増加など

注6) インパクト創出に資する産業・事業 注7) 「事業」にはプロジェクト等を含むため企業数と事業数は必ずしも一致しない。

近畿四国 ソーシャルインパクトファンド

SIIF Social Innovation and Investment Foundation 社会変革推進財団

「近畿四国ソーシャルインパクトファンド
課題構造 & 目指すインパクト ver. 2.0」

制作・発行：近畿四国ソーシャルインパクトファンド投資事業有限責任組合

制作協力：一般財団法人社会変革推進財団

発行年月：2026年1月